

2021年度 事業報告書

2021年度、新型コロナウイルスの感染拡大の波が幾度も押し寄せ、国民の行動は著しい制約を受けました。これにより、青少年の健全な成長に必要なスポーツや体験学習の機会が減り、国民の心身の健康悪化も社会課題となる状況が続きました。

当財団の活動も例外ではなく、主催、共催、後援事業の中止または縮小が余儀なくされました。

このような制限の中ではありましたが、財団創設者 安藤百福の「食とスポーツは健康を支える両輪である」という理念を実現すべく、子どもたちの健全な心身の育成と食文化の発展に貢献する公益事業を実施しました。

その概要につきまして、以下のとおりご報告いたします。

<公益目的事業>

- (1) 公1. 陸上競技支援事業
- (2) 公2. 自然体験活動支援事業
- (3) 公3. 食文化振興事業
- (4) 公4. 発明記念館運営事業

<収益事業等>

- (1) 収1. 施設賃貸および物販等の業務受託

<公益目的事業>

■公1. 陸上競技支援事業

「未来ある子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせたい」という公益財団法人日本陸上競技連盟の考えに賛同し、走る楽しさ、仲間とふれあう喜びを広めることを目的に、全国の小学生を対象とする陸上競技大会を支援しています。

1. 小学生陸上競技大会の後援事業

(1) 「第37回全国小学生陸上競技交流大会」の事業後援

子どもたちに正しい走法を学ばせること、スポーツを通じ友情を育んでもらうことを目的に、1985年から小学生陸上競技交流大会を後援しています。2021年度は、6月、7月に開催された地方大会が新型コロナウイルスの第5波と重なり、多くの地方大会が延期、中止を余儀なくされました。しかし、子どもたちに日ごろの練習の成果を発揮する場を提供したいとの思いから、安全に開催できる方法を模索しました。参加者数の半数への縮減、参加者全員のPCR検査、宿泊時の行動制限など、感染対策を徹底することで、2年振りに全国大会開催を開催することができました。

また、コロナ禍により活動が制限される中だからこそ、「記録」に対する興味、喜び、自信、目標を感じてほしい、本大会への出場を思い出に刻み、活動のモチベーションや将来への希望を持ってほしいという願いから、新たな試み「My record」を実施しました。これは、地方大会に出場した全小学生の記録を日本陸上競技連盟のウェブサイトに掲載するものです。順位付けや競争による小学生期の過度なトレーニングや精神的負担の増長を防ぐため、相対的な順位表にはなりませんが「ランキング」とはせず、「My record」としています。

【地方大会】 開催日程：2021年6月～8月 *沖縄県は10月に他競技会と併催で開催

参加者数：約30,000名

【全国大会】 開催日程：2021年9月18日(土)～19日(日)

参加者数：476名

【事業費】 99,264,141円

2. 少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」表彰

子どもたちの健全な心身の育成には、優れた指導者の存在が不可欠であるとの考えから、小学生の指導者を顕彰する少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」を、各都道府県から選出された指導者47名に贈呈し、今後の一層の活躍を期待して表彰しました。

3. 「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」支援事業

当財団と公益財団法人日本陸上競技連盟は、若手アスリートの海外挑戦、武者修行を支援する「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」を2015年9月にスタートしました。世界のトップ選手が集うトレーニング環境に飛び込み、現地のコーチに指導を乞い、切磋琢磨しながら、トップアスリートとして求められる資質を育成するもので、国際大会におけるメダリスト誕生をサポートするものです。これまで、延べ48名の若手アスリートを支援しました。

2021年度は、海外での活動が大きく制限されたため、1名のみ支援となりました。

【2021年度支援対象者】 1名

氏名	年齢	種目	活動期間	日数	活動拠点
小林 歩未 (筑波大学)	20 女	100mH	2022年1月1日～3月31日	90	アメリカ (テキサス州)

【事業費】 953,761円

4. スポーツ全般におけるジュニアアスリート育成の後援事業

本事業は、青少年の健全な心身の育成を図るという目的のもと、公益財団法人日本オリンピック委員会に加盟する競技団体を対象とし、全国的な組織またはそれに準ずる団体の活動を通じて、ジュニアアスリート育成を支援します。

2021年度も引き続き、公益財団法人日本テニス協会が主催する男子ジュニア育成プログラムを後援しました。コロナ禍により、特に海外遠征が縮小したものの、コーチによる巡回指導や国内合宿などを支援しました。

【参加者数】 ・U16 ジュニアデビスカップ世界大会 選手・指導者 5名 (2021年9月トルコ)
・修造チャレンジキャンプ 選手・指導者 65名 (年4回開催)
・国内強化合宿 選手・指導者 18名 (年2回実施)

【事業費】 11,808,188円

■公2. 自然体験活動支援事業

「自然とのふれあいが子どもたちの創造力を豊かにする」という安藤百福の考えのもと、財団設立以来、青少年の健全な心身の育成を目的に、子どもたちの「協調性」や「自活力」を育む自然体験活動の更なる普及と活性化に取り組んできました。

2010年5月、長野県小諸市に設立した「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター（略称：安藤百福センター）」を拠点に、アウトドア活動の活性化に取り組みました。

1. 「第20回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の実施

「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」は、2002年のスタートから、節目の20周年を迎えました。第20回を記念して、実施支援金を従来の10万円から20万円に増額したところ、昨年の倍に近い238件の応募がありました。コロナ禍で活動が難しい状況でしたが、ユニークで創造的なプログラムが数多くみられ、指導者の方々の情熱を感じることができました。

その中から50団体を選考し、実施支援金を贈呈しました。活動に参加した子どもの数は14,000人にのびります。さらに、その活動報告書を審査した結果、学校部門では、地域の環境を生かしながら、その文化を伝承する「筏流しの再現」が文部科学大臣賞を、数多くの山の走破と振り返りによる成長を図る「限界突破キャンプ」が安藤百福賞を受賞しました。

感染拡大により、当初1月29日開催を予定していた表彰式は延期となりましたが、3月26日に規模を縮小して表彰式を開催し、受賞団体の活動報告をホームページ「自然体験.com」において広く公開しました。

【後援】文部科学省、横浜市、横浜市教育委員会

【表彰団体】

[学校部門]

◆ 文部科学大臣賞（副賞：100万円）

団体名：大津市立葛川中学校（滋賀県）

企画名：「筏流しの再現」：葛川に古来より伝わる水文化「シコブチ信仰」を発信し、地域活力を高めたい！

◆ 優秀賞（副賞：50万円）

団体名：大阪市立瓜破西小学校（大阪府）

企画名：「アトリカリキュラム」の実践 ～つなげよう！自然と人と学びとこころ～

[一般部門]

◆ 安藤百福賞（副賞：100万円）

団体名：独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立赤城青少年交流の家（群馬県）

企画名：「限界突破キャンプ」～完結編～

◆ 優秀賞（副賞：50万円）

団体名：島根県立少年自然の家（島根県）

企画名：ジュニア・サマー・キャンプ2021～仲間と挑戦！江津市の絶景発見！歩き旅～

[学校部門・一般部門共通]

◆ 推奨モデル特別賞（副賞：30万円）

プランニングや指導の方法、計画を実施に移す過程などが、多くの学校や団体の参考モデルになると認められた企画に贈呈しました。

団体名：甲賀市立油日小学校（滋賀県）

企画名：「自分・人・物・自然を大切に」を合言葉にみんなで取り組むエコ・スクール活動～地域資源を生かして～

◆ トム・ソーヤー奨励賞（副賞：各20万円）

企画内容がユニークで他団体への刺激や参考となり、更なる飛躍が期待できる企画に贈呈しました。

- ① 団体名：横浜市立茅ヶ崎中学校（神奈川県）
企画名：我々の住むニュータウンの生き物から学ぶ
～持続可能な学区を生き物と水から考える～
- ② 団体名：伊那市立伊那西小学校（協働：ミヤマシジミ研究会）（長野県）
企画名：絶滅危惧種ミヤマシジミを守ろう
～里山の小学生が小さな命をつなぐ体験活動～
- ③ 団体名：特定非営利活動法人 つがる野自然学校（青森県）
企画名：白神 Jr. レンジャーキャンプ
- ④ 団体名：まきのはら水辺の楽校（静岡県）
企画名：命を育む活動

◆ 努力賞（副賞：各 10 万円）

[学校部門]

- ① 団体名：調布市立滝坂小学校（東京都）
企画名：「滝坂の森」発！調布にグリーンベルトを広げよう
- ② 団体名：高槻市立第六中学校・自然観察研究会（大阪府）
企画名：琵琶湖・淀川水系「調べ隊、守り隊、知らせ隊」

[一般部門]

- ① 団体名：認定特定非営利活動法人 穴塚の自然と歴史の会（茨城県）
企画名：田んぼの学校
- ② 団体名：特定非営利活動法人 もあなキッズ自然楽校（神奈川県）
企画名：小学生向けの遊びと環境学習活動「もあなキッズアースビレッジ」
- ③ 団体名：特定非営利活動法人 里豊夢わかさ（福井県）
企画名：「自然の中で生きる力を育む体験活動」

【事業費】 28,703,063 円

2. 安藤百福センター事業

コロナ禍による 3 密の回避につながる、自然の中での活動への志向が高まっています。自然の中を歩くことは、体力、好奇心を育み、環境学習にもつながる青少年教育の有効なツールです。

また、2022 年度には、日本列島を貫く山旅「JAPAN TRAIL 提唱」（特定非営利活動法人日本ロングトレイル協会主宰）の記者会見も予定されています。このような背景から、安藤百福センターの事業は、「歩く旅が自然体験の基本」と位置づけ、これにつながる講座などの事業を展開しました。

2021 年度春から秋は、コロナ感染拡大により、主催、共催事業の中止を余儀なくされた講座もありましたが、可能なものはオンラインでの講座を開催しました。緊急事態宣言が解除された 10 月以降は、感染防止対策を講じた上で、自然を楽しむ講座や体験事業を展開することができました。

（1）自然体験活動振興事業

① 指導者養成のための研修会、講座、シンポジウム等の開催

公益社団法人日本山岳ガイド協会主催の危急時対応技術講習会などの安全管理に関する研修会をはじめ、大学や民間のアウトドア活動団体が安藤百福センターを利用して、各種研修会を実施しました。

② 自然体験活動への興味を喚起し、自然体験活動を活性化する施策の実施

安藤百福センターの森では、自然体験に興味がない人でも「アート」をきっかけに豊かな自然に触れ合うことを目的とした「小諸ツリーハウスプロジェクト」を推進しています。コロナ禍により、地元の旬の味覚を味わえる飲食ブース、野外音楽ライブなど「アート・アウトドア・食」をテーマとしたイベント（秋開催予定）は中止し、またツリーハウスの見学は通年中止としました。

コロナ禍の影響を受けながらも、自然を楽しむ講座や体験、安藤百福センターの野外研修フィールドである浅間・八ヶ岳パノラマトレイルにおいて、次の講座などを主催しました。

- ・大人のトレイル歩き旅講座（4回開催）
- ・みんなでダイヤモンド浅間、パール浅間を見に行こう（3回開催）
- ・子どもクライミング教室（5回開催）
- ・ロングトレイルハイカー入門講座（実開催1回、オンライン開催1回）
 - <現地開催> 空を見て天気を判断しよう
 - <オンライン> もしもの時の対応を身につけよう
- ・<オンライン講座> おうちで学ぶアウトドア講座（2回）
- ・<オンライン講座> トレイル歩きのカラダづくり講座（1回）

(2) ロングトレイルの普及と安全対策事業への支援

子どもたちの自然体験の主な活動場所は、山、川、海や身近な森林、キャンプ場が中心であり、どのフィールドでも「歩く」ことが基本となります。当財団は、特定非営利活動法人日本ロングトレイル協会と連携し、ロングトレイルの普及・振興のための事業を支援し、「歩く旅の文化」の醸成を図り、子どもたちが安心して自然体験が楽しめるよう安全対策事業を支援しました。

- ・日本列島を貫く一本道の「JAPAN TRAIL」提唱に向けた支援、制作委員会への参画
- ・ロングトレイルの情報収集と発信、広報活動支援、全国の運営団体との交流
- ・地方公共団体、トレイル運営者向け「トレイル歩きの安全管理講座」「事例に学ぶトレイルの事業企画講座」などオンライン講座を実施

【事業費】 110,235,827円

3. 自然体験活動支援ホームページ「自然体験.com」の運営

自然体験活動に関する情報や専門家によるノウハウを満載しているホームページ「自然体験.com」は、学校完全週5日制が施行された2002年にスタートしました。当財団では、「自然体験.com」を通じて、保護者や指導に携わる方々へ自然体験活動に関する情報を提供し、子どもたちの「創造力」や「自活力」を育む自然体験活動の輪を広げる事業を行なっています。

また、「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の募集や、支援団体の活動状況を伝える速報レポート、活動報告書も掲載しています。表彰式の縮小化に伴い、文部科学大臣賞、安藤百福賞など受賞した団体の活動報告の動画を公開し、他団体の参考としています。

【URL】 <http://www.shizen-taiken.com>

【事業費】 7,480,937円

■公3. 食文化振興事業

1. 食創会「第26回安藤百福賞」表彰事業

食創会は、1996年、「食創為世（食を創り世の為につくす）」という安藤百福の理念に基づき、新しい食の創造を推し進め、食品産業の発展に貢献することを目的に創設されました。当財団では、「食創会」を主宰し、毎年「安藤百福賞」の表彰を行っています。

「安藤百福賞」は、安藤百福がインスタントラーメンを発明し新しい食文化を創造したように、食科学の振興ならびに新しい食品の開発に貢献する研究者、開発者およびベンチャー起業家を表彰するものです。大賞や優秀賞のほか、発明発見奨励賞は、大学などに所属する若手研究者や中小企業の開発者を表彰対象としています。2016年度より、小泉純一郎元内閣総理大臣を食創会会長に迎え、食文化の向上に貢献する事業の更なる活性化を図っています。

コロナ禍により、3月8日規模縮小して表彰式を実施しました。

【後援】 文部科学省、農林水産省

【表彰者】

● 大賞（副賞：1,000万円）

濡木 理 氏（東京大学大学院 理学系研究科 教授）

「CRISPR-Cas分子機構の構造基盤と食品産業に貢献する新規ゲノム編集ツールの開発」

● 優秀賞（副賞：各200万円）

・中村 俊樹 氏（国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
東北農業研究センター 主任研究員）

「革新的食品の創出をめざした小麦の開発」

・藤原 大介 氏（キリンホールディングス株式会社 ヘルスサイエンス事業部 部長）
「免疫の機能性表示を達成した食品素材『プラズマ乳酸菌』の発見と実用化」

● 発明発見奨励賞（副賞：各100万円）

・小川 剛伸 氏（京都大学大学院 農学研究科 助教）

「麺の食感を可視化する革新的技術の発明と食感を支配する機構の発見」

・戸田 安香 氏（明治大学 農学部農芸化学科 特任講師）

「旨味受容体の測定系開発とおいしさ研究への応用展開」

・中島 健一朗 氏（大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所 准教授）
「末梢および中枢における甘味の受容・修飾メカニズムの解明」

・堀尾 奈央 氏（ハーバード大学 医学部 博士研究員）

「空腹時の食べ物の匂いの嗜好性増強メカニズムの解明」

【事業費】 39,457,193円

2. 食科学の進展に寄与する学生への「安藤百福 Scholarship」奨学支援事業

日本国内では、経済的理由で就学が困難な学生を支援するため、さまざまな奨学金制度がありますが、大学院生に特化した奨学金制度は十分ではなく、アルバイトなどで学費や生活費を工面している学生が少なくありません。今般のコロナ禍において、この問題は深刻化しています。

大学院は、研究者や高度な専門家を養成することから、日本の将来を担う優秀な人材が、経済的な理由で進学を断念する、あるいは休学または退学を余儀なくされると、新たなイノベーションを創出する人材を失うことにもなりかねません。

当財団は、食科学のイノベーションをコロナ禍で停滞させてはならないとの思いから、「安藤百

福 Scholarship」奨学支援事業を創設し、2021年度、食科学の進展に寄与する大学院生100名に年額100万円の奨学金を給付しました（10月から辞退者1名あり）。安藤百福の掲げた「食創為世」の理念のもと、このコロナ禍にあっても、食文化の向上、振興を担う将来の人材の育成を図ります。

【事業費】 99,520,000円

3. 「食分野における主観的ウェルビーイング指標開発」調査研究事業

WHOは、「健康とは、身体的・精神的・社会的にウェルビーイングな状態」と定義しています。ウェルビーイングは、客観的な側面と主観的な側面に分かれており、特に食分野における「主観的ウェルビーイング〈満足度・幸福度〉」について基礎となるデータの蓄積が乏しく、革新のための知見が足りない状況です。

当財団は、2021年度、公益財団法人Well-being for Planet Earthと連携し、食文化の向上に資する研究や開発につながる「食分野における主観的ウェルビーイング指標開発」調査研究事業を創設しました。調査収集したデータを広く公開することにより、研究者、開発者、起業家の研究、開発を促進し、食文化や関連政策の向上、人々の健康改善、幸福の享受に貢献してまいります。この調査研究事業は2022年度より本格的にスタートします。

■公4. 発明記念館運営事業

「人間にとって一番大事なのは創造力であり、発明・発見こそが歴史を動かす」という安藤百福の考えに基づき、世界の食文化を変えたインスタントラーメンの誕生から、産業として世界に発展していった歴史を通じて、未来を担う子どもたちに発明・発見の大切さを伝え、「ベンチャーマインド」や「クリエイティブシンキング＝創造的思考」を育み、青少年の健全な心身の育成に寄与することが、この事業の目的です。

2021年度は半分以上の期間で、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用されました。これにより外出が制限され、学校利用のキャンセル、個人客の減少が続き、さらに池田記念館では大阪府休業要請による臨時休館が約2ヶ月間ありました。感染の沈静時期（11月、12月）には回復の兆しも見られ、前年度よりは改善したものの、池田、横浜の両館をあわせ、来館者数は442,000人とどまりました。（前年度比163.7%、2018年度比21.8%）

まだまだ予断は許されませんが、ワクチン接種の進行、重症者数の減少などを受け、感染予防策を徹底しつつ、アフターコロナを見据えた施策を検討実施する必要があります。

そのため、事前予約等による定員制は維持しつつも、入館定員数を段階的に増やし、学校団体・一般団体などへの積極的な案内を行うなど取り組んでいます。

1. 安藤百福発明記念館 大阪池田（池田記念館）

1999年11月、世界初のインスタントラーメン発祥の地・大阪府池田市に開館した池田記念館では、2021年度来館者数は125,000人、累計来館者が1,017万人を突破しました。

【施設概要】 所在地：大阪府池田市満寿美町8番25号

敷地面積：4,477㎡、延床面積：3,423㎡

【開館年月】 1999年11月 累計来館者数 10,175,000人

<2021 年度実績>

- 【開館日数】 258 日 *臨時休館 2021 年 4 月 25 日～6 月 22 日
【来館者数】 126,000 人 (前年度比 141%、2018 年度対比 14%)
【体験者数】 チキンラーメンファクトリー 休止
マイカップヌードルファクトリー 135,000 食
【学校教育】 140 校 7,700 人
【事業費】 143,450,765 円

2. 安藤百福発明記念館 横浜 (横浜記念館)

- 【施設概要】 所在地：横浜市中区新港 2 丁目 3 番 4 号
敷地面積：4,000 m²、延床面積：9,883 m²
【開館年月】 2011 年 9 月 累計来館者数 9,478,000 人

<2021 年度実績>

- 【開館日数】 306 日
【来館者数】 316,000 人 (前年度比 176%、2018 年度比 28%)
【体験者数】 チキンラーメンファクトリー 休止
マイカップヌードルファクトリー 304,000 食
カップヌードルパーク 休止
ワールド麺ロード 65,000 食
【学校教育】 349 校 19,000 人
【事業費】 432,428,206 円

<収益事業等>

■施設賃貸および物販の業務受託

当財団が所有する発明記念館 (池田記念館、横浜記念館) の一部を、物販コーナーとして賃貸しました。なお、これまで、池田記念館では物販業務を受託していましたが、業務の見直しに伴い、2018 年 10 月より業務受託を一時休止しています。

- 【賃貸面積】 ① 池田記念館 324 m² (館全体の延床面積に占める割合：約 9%)
② 横浜記念館 115 m² (館全体の延床面積に占める割合：約 1%)
【事業費】 10,790,638 円

以上